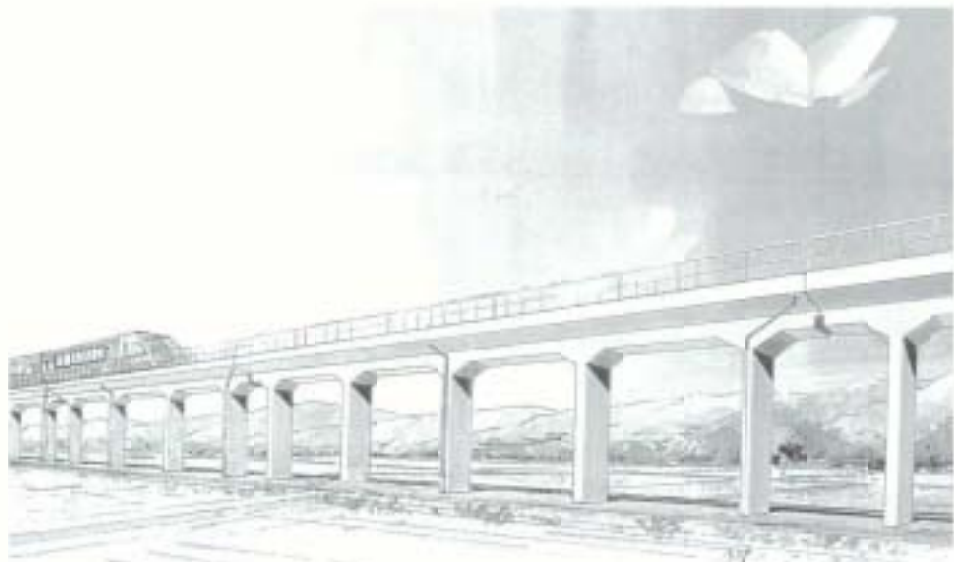


# 「県東部地域の夢」実現へ！！



## ■事業計画（昭和62年免許申請時）

①運行計画	快速列車	3.5往復	1両および2両
	普通列車	11.5往復	
	計	15.0往復	
②所要時間	後免—安芸間	快速列車	30分
		普通列車	44分
	安芸—高知間	快速列車	40分
	朝夕のラッシュ時		約20分間隔
	オフ・ラッシュ時		約50分間隔
③収支計画	単年黒字転換	開業後	6年目
	累積黒字転換	開業後	7年目

安芸—高知間の時間距離が大幅に短縮されることになり、通勤・通学など利用者にとって利用しやすい交通機関が生まれることとなります。

## ■経過

阿佐線は昭和56年旧国鉄計画が中止になり、新たに土佐くろしお鉄道株式会社が経営母体となるいわゆる第3セクター方式（自治体と民間の共同出資によりつくられた法人）で、昭和63年から工事が日本鉄道建設会社により再開されました。

南国市では、いくつかの課題があり解決に長い年月を要しました。それは、

- 1、鉄道経営の採算性
- 2、経営の安定を図るための鉄道経営助成基金の分担
- 3、土盛工法から高架工法への変更
- 4、都市計画上の障害

などで、市民が不安を抱いていることを十分認識し、市益確保と県東部地域の鉄道建設への悲願ならびに、その地域の活性化という県政上の課題の間に立って、市議会・行政ともに合意点を見いだすべ

く、県・公団・阿佐線建設促進協議会などと長期間協議した結果、ほぼ合意点に到達しました。

今後、用地取得をお願いしなければならぬのは、沿線の地権者約20人となります。

## ■基金

鉄道経営助成基金の造成については、10億円を目標として県および関係15市町村分の8億5千万円の積み立てを完了しました。

高架構造への変更については、平成9年度に入り地元負担3億円（15市町村の負担額は未定）で、変更が確実な状況になりました。

## ■用地取得と

### 事業説明会の開催

このような状況から、市民の意見を可能な限り聞くという姿勢で沿線各地区で説明会を開催し、一定の理解と協力

## ■工事着手

平成14年開業に向け、いよいよ本年度から建設工事に着手する予定で、沿線の方々や土地所有者のご理解とご協力を得るよう、全力で取り組んでいきます。

## ■駅前整備と課題

阿佐線という新たな公共交通の開設に備え、駅前整備を進めるとともに周辺の活力あるまちづくりと、鉄道による交流人口の流れが南国市の発展につながるような行政、ならびに民間の取り組みが重要となります。



■予定駅（南国市内）

JR 後免町駅  
後免町駅  
立田駅

阿佐線軌道敷図（計画）